

一人一人が意欲を持ち、主体的に追究するための、T T、少人数指導のあり方

－T T・少人数指導を組み合わせた学習指導－

羽島市立羽島中学校 野田 国宏

1 指導の立場

(1) はじめに

少人数指導では、人数が少ないことにより、一人一人にかかわることができるため、生徒の科学的な見方や考え方を育てるために有効であると考えられる。本校でも、昨年度、2クラスを3つに均等に分ける少人数指導を行い、学習内容の理解が深まる等の成果をあげた。一方で「他クラスの生徒と学習することで発言しにくい」、「習熟の程度に応じた学習をしたい」などの生徒の声があるように、弾力的な運用が困難であることが明らかになり、少人数指導の進め方を工夫する必要性を感じた。また、T Tの方が生徒の疑問を解決するために効果的であると感じることもあった。本年度、1クラスを2つに分ける少人数指導で弾力的に運用することにし、T T指導と少人数指導を組み合わせる指導を行うこととした。T Tが有効な場面、少人数が有効な場面を生徒の変容をもとに明らかにするとともに、少人数の分け方についても、どのような場面では、どのような分け方がより生徒の意識にあっているのか明らかにするために、以下の実践を行った。

(2) 研究仮説

生徒の実態に応じて、T T、少人数指導を工夫し、個に応じたきめ細かな指導を行えば、生徒一人一人が意欲的になり、課題を主体的に追究することができるようになる。

(3) 研究内容

- ①昨年度の少人数指導の成果と課題を明らかにする。
- ②実践を通し、T T及び少人数指導が有効な場面を明らかにする。

- ③生徒の意識を調査し、今後のT T及び少人数指導のあり方を検討する。

2 実践

(1) 昨年度の少人数指導の成果と課題

昨年度、本校では2クラスを1ユニットとして、その中で3つに分ける形での少人数指導を、英語・数学・理科で実施した。理科では、様々な問題に対応するため、次の点を配慮して実施した。

- ①単元を通して分ける少人数指導
 - ②生活班を母体として等質に分けるクラス編成
 - ③少人数指導の時期が重ならないように順序を入れかえた学習課程・少人数指導優先の理科室割り当て・2年生と1・3年生が同時間にならない時間割編成
 - ④足りない器具を補うための自作教具の活用・他校からの借用・学習進度の意図的変更
- 昨年度の少人数指導実施後、生徒にアンケート調査を実施した。その結果から、昨年度の形式の少人数指導には次のような利点と課題があることが明らかになった。

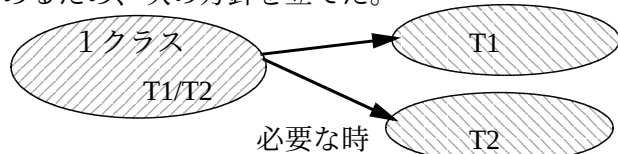
- 一人一人にかかわる時間が増える。
 - 生徒は教師に質問する機会が増える。
 - 理解を深める。
- 黒板や教師までの距離が小さくなる。
 - 黒板が見やすい。説明が聞き取りやすい。
 - 理解を深める。
- 実験時に場所を広く使える。
 - 準備しやすい。
- 緊張しにくい。 → 挙手しやすくなる。
- 班を単位。 → 聞きやすい。協力しやすい。
- 人数が少ない。グループ数が少ない。
 - 意見交流で意見が少ない。
 - 課題解決に必要な実験結果が少ない。
- 他のクラスの知らない人が多い。

→実験がやりにくい・挙手しにくい。

●実験技能など、到達度別の編成も必要。

(2) 本年度の実践の方向

昨年度の実践の課題を克服した少人数指導を進めるため、次の方針を立てた。



本年度は、1学級を単位とし、TTを基本としながら、必要に応じて1単位時間内で2つに分ける少人数指導を行っていくことにした。これにより、昨年度の課題を次のように克服することができる。

①単位時間の流れ

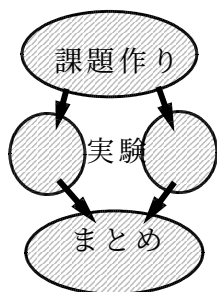
まとめを全体で

→人数・グループ数が増えるため、交流される意見・実験結果が多くなる。

実験観察場面を少人数で。

→場所を広く使える。準備しやすい。

先生に聞きやすい。



②器具不足の解決

→同学年が同時間に入らないように時間割を編成することにより、器具不足を解決できる。

③様々なパターンの分け方

→1時間の中で分けるため、等質・到達度別・方法別といった多様な分け方を工夫することが可能になる。

④学級集団を生かした授業

→1クラスが単位であるので、学級組織などを生かすと共に、精神的にも安心して学習に臨むことができる。

本年度の実践を進めるため、2学期の時間割編成の中で2年生でTT・少人数を位置付けた編成をお願いした。しかし、本年度本校には、英語科と数学科に1名ずつ初任教員が配属されていることから、時間割編成上、次のような制約が残った。

①週3時間のうち2時間しかTT・少人数の位置付けができない。

②TT・少人数指導で入る教師は、2時間とも同じとは限らない。

(3) 実践 TT (2年「電流」単元)

2年生の「電流」単元から、TTを基本として指導を行うことにした。TT指導方針として、次の3つのパターンを考えた。

Aパターン

苦手意識を持った生徒を援助する

→充実感がもてるようにする。

Bパターン

意見交流場面で、全体に広めたい見方・考え方をしている生徒に、意図的な声かけを行う

→自信をもって自分の考えを発表できる。

Cパターン

実験中の机間指導を分担して行う

→安全について配慮

→実験結果に自信をもつ。

これらのパターンで、指導・援助が必要となる生徒に、意図的にTT指導を行った。

実践例<A男の場合>Aパターン

TT指導開始前

授業内容が理解できず、他事をするなど授業に集中できない。

ノート記述時に、板書の意味などを説明した。考察の記述のよさを認め、ほめた。

TTによる変化

意欲的に発言するようになってきた。学習後に記入する自己評価表では、「電磁石には磁力線があることが分かった」と、学習内容に関わる記述をするようになってきた。

実践後、アンケート調査を行った(表1)。それぞれ「教師一人の一斉授業」「昨年度の少人数授業」と比較して4択で答える形にした。

生徒はおおむね良かったという感想をもっていた。特に内容の理解のしやすさは、一斉授業と比較した場合全ての生徒が「よい」「まあまあよい」と回答している。この理由として、次のようなものがあつた。

- ・分からない時に質問しやすい。
- ・発言する時に、相談することで自信がもてる。
- ・実験の進め方に自信がない時に、すぐに聞ける。

近くにいつも教師がいることで質問しやすいことが、生徒の自信や理解につながっていることが分かった。

一方で、観察・実験を行う時の活動のしやすさでは、「あまりよくない」という答えが、昨年の少人数と比較した場合で多くなっている。その理由として、T Tで一齐授業と同じ状態での実験になるため、場所が狭い点を挙げている生徒が多かった。

また、手の挙げやすさも、「あまりよくない」が多かった。この理由としては、少人数に比べ人数が多いため、緊張しやすい点が挙げられていた。

<表1> アンケート結果

①理科の学習に対する興味・関心や楽しさを感じますか。

	◎	○	△	×
一齐授業と比べて	39.4	57.6	3.0	0.0
昨年度少人数と比べて	33.3	60.6	6.1	0.0

②内容をしっかり理解することができますか。

	◎	○	△	×
一齐授業と比べて	50.0	50.0	0.0	0.0
昨年度少人数と比べて	33.3	63.6	3.0	0.0

③観察・実験を行う時、活動がしやすいですか。

	◎	○	△	×
一齐授業と比べて	55.9	41.2	2.9	0.0
昨年度少人数と比べて	35.3	52.9	11.8	0.0

④手が挙げやすくなり、挙手回数が増えますか。

	◎	○	△	×
一齐授業と比べて	17.2	72.4	10.3	0.0
昨年度少人数と比べて	30.0	46.7	23.3	0.0

⑤先生の説明がわかりやすいですか。

	◎	○	△	×
一齐授業と比べて	39.4	54.5	6.1	0.0
昨年度少人数と比べて	36.4	54.5	9.1	0.0

(4) 実践 少人数

(2年「化学変化と原子分子」単元)

「化学変化と原子分子」の単元の中で少人数指導を導入していくことにした。少人数の分け方としては、次のパターンを考えた。

Aパターン 班を主体とした等質

- ・実験班の人数を少なくして実験に関わる機会を増やし、実験技能を身に付けたい場合

Bパターン 班を主体とした等質

- ・安全上等、場所を広く使いたい場合

Cパターン 方法別

- ・課題を解決する実験方法が複数ある場合

Dパターン 課題別

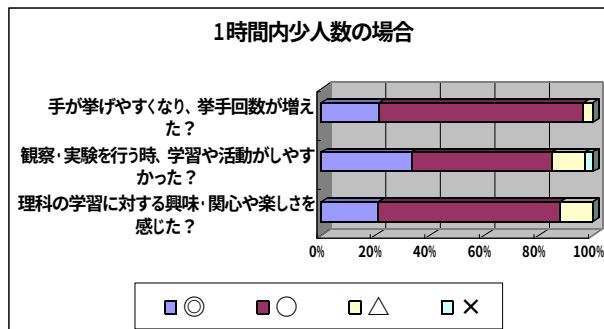
- ・単元の終末に発展的に調査活動を行う場合

Eパターン 習熟度別

- ・実験技能の習得が十分でない場合に、同じ実験操作が必要な場面で

今回、水の電気分解の実験を、少人数指導で行った。今回は、Aパターン・Bパターンに相当すると考え、班を主体とした等質に分けた。

実践後、アンケート調査を行った。



どの項目も、「よい」「まあまあよい」という答えが多いが、細かく見ると、質問項目により違いが見られる。特に観察・実験のしやすさは、評価が大きく分かれた。その理由には、次のようなものがあつた。

「よい」

- ・実験準備がしやすい。
- ・広く使えるため、実験がしやすい。
- ・実験が早く終わるため、考察時間が増える。
- ・人数が少ないため、質問がしやすい。

「よくない」「あまりよくない」

- ・人数が少ないから、相談できない。
- ・先生が一人しかいないから相談しにくい。

実験のしやすさで、少人数学習が評価され、相談のしやすさでT T指導が評価されていることが分かる。

3 成果と課題

○アンケート結果から、T T指導では質問のしやすさ、少人数指導では実験のしやすさが評価されていることが分かった。

○意図的なT T指導により生徒にとって質問しやすい環境になり、学習内容の理解や学習に向かう意欲を高めることができる。

●等質以外の分け方の少人数指導をどの場面で行うことが有効なのか、実践・調査していく必要がある。